

山野草を求めて

はじめに

60歳を記念して、仮称「足で視た高山植物」を出版すべく、30歳の前半から高山に登り、花が生存している環境調査と珍しい花を写真に収めていた。58歳の時、軽い狭心症を患い登山を諦め出版物も残念した。

旧軽井沢太郎山山荘は、15年間生活したが日当たりが良く、フシクロセンノウ、トリカブト、エンレイソウ、イチヤクソウ、マイズルソウなどの山野草を育てていた。

新しい軽井沢南ヶ丘別荘は、西側の隣接地の森林が日陰を設け、高山植物や山野草を育てるのに最適条件だ。それに、現在は旧山荘に比べ年齢と共に仕事量を減らし、宿根草育ての時間が出来てきた。言い換えると、神経を使う経営コンサルティングから山野草を育てる喜び(心が癒される)にシフトしている。

現在は、昔と違って自然の山野草が採れなくなったので、専門店から購入しているが、珍しい花程入手が難しい。軽井沢は、涼しく高山植物に適しているように思われがちだが、実は湿度が高く水分が多いので、ガレキで肥料を必要としない高山植物には不向きである。

そこで、高山植物の生存の環境などを直視しながら、庭で育てる研究を重ねるために、山野草や高山植物を求めるツアーに参画している。昨春は、礼文島と利尻島を訪れ、レブンアツモリソウへの関心度が高い。

今頃は、庭の花や木を勉強するために、本場イグリッシュガーデン(英国)を訪れているはずだが、今年には家内の持病の目眩が多発しているため、海外で発生すると3、4日動けなくなるから、キャンセルして“古希のお祝いの旅”-美食と国際級山岳リゾートで寛ぐベストシーズンの白馬・上高地の花めぐり-及び“自然観察ツアー”-赤城高原フラワーウォッチング-に参画した。

スケジュール

7/2：東京駅→長野駅→小布施(昼食)→白馬五竜高山植物園→白馬八方温泉泊。

7/3：白馬八方温泉→熱気球体験→上高地→白馬八方温泉泊。

7/4：白馬八方温泉→ビーナスライン(諏訪湖、車山)→バラクライグリッシュガーデン→茅野駅→新宿駅。

PS1：以上は、旅行会社の企画。

7/5：大宮→赤城山→覚満淵→小沼→大沼/赤城神社。

PS2：「NPO法人自然観察さいたまフレンド」の企画。

PS3：最近「軽井沢サクラソウ会議」に会合し、サクラソウの保存や自然観察に参加している。

白馬五竜高山植物園

北アルプス連山の白馬三山、白岳などが繋がる一角の裾野に、五竜岳がある。その中腹に白馬五竜高山植物園(標高1500m)がある。

ゴンドラでアルプス平駅→とおみ駅(標高820m)迄10分弱で目的地に着く。

快晴だと、北アルプス連山が広がっているが、雨天だったので全く見られず残念だった。



ゴンドラで登る



とおみ駅周辺



ペアリフト/左側が北アルプス連峰

とおみ駅からペアリフトで、地蔵ケルン麓(標高1676m)まで登り、歩いて白馬五竜高山植物園に出るコースに鮮やかなサラサザウダンに似た上品な色合いのウラジロヨウラク、秋に黒い実を付けるクロマメノキ、湿地帯に水芭蕉、ワタスゲ、白花つつじ、ヤシオツツジなどが咲いていた。



ウラジロヨウラク



水芭蕉



ワタスゲ

山道を30分程歩いて、本日の目的地である白馬五竜高山植物園(1515m)に出た。この植物園には、約300種以上、約200万株の高山植物が咲き誇っている。

目に引き込まれたのは、ヒマラヤ青いけし(ブルーポピー)である。同花を知ったのは、15年程前に堀文子さんのブルーポピーの絵画と数年前にヒマラヤ登山隊の記録映像を見て、ヒマラヤの4000m付近に生存している清々しいブルーの花に関心を抱いてきた。

まさか同園に咲いているとは全く知らなかったが、ツアーで東京駅に集合した時、添乗員から『丁度、ヒマラヤ青いけしが咲いていますよ!』と知らされ、初めて実物を視る感動にテンションが高まってきた。

同園のブルーポピーは、堀文子さんの毛ばたつた茎でなく、可憐な花であった。そして、ブルーの他、ピンク、

白花、黄花のけしが育てられていたが、ブルーポピーに比べるとその比で無い。
 同花は、咲き始めのつぼみのブルーの色合いが最高だ。詳しくは、同園の技術者に育て方を教わるがコマクサと同じく痩せ地の水はけの良いガレキが適していると推測する。
 一方、車山の高級ホテル(標高 1500m)の庭にも咲いており、軽井沢は標高 1000mだが何としても育てたい！
 種々の山でコマクサを観たが、同園のコマクサは濃いピンクで鮮やかだった。白花コマクサも数株あった。
 続いて、ハクサンチドリ、ノビネチドリ、ウップルソウ、ミヤマオダマキ、オキナグサ、チンバイ、イワキキョウ、エーデルワイス、シラネアオイ、クロユリ、ハクサンフウロ、クリンソウなど青、紫の花は実に綺麗な色合いを施していた。空気が澄みきった高山植物の特徴と言えよう。特に、ブルーが好きな私にとって感無量だった。



ヒマラヤ青いケシ



ピンクのケシ



白花ケシ



黄花ケシ



ハクサンチドリ



ノビネチドリ



コマクサ



白花コマクサ



ミヤマオダマキ



オキナグサ



アカネキンバイ



チングルマ



シラネアオイ



クロユリ



名称不明→ご存知の方ご一報を

熱気球

午前 5:30 起床、ホテルを 6:00 に出発して、無風状況での熱気球に乗りに出かけた。
 熱気球に乗って、白馬村をヘリコプターのように横移動するかと思っていたら、3か所のロープが地上に固定され、熱源のバーナーで温められ上昇するが、放置しておけば5分程で下降し始める。大体、高さ 10m位しか上昇しないから、周辺の景色は高度で無いから感動しなかった。熱気球に乗ったという経験に過ぎない。



熱気球



熱気球の天井



熱気球の中

上高地

白馬八方温泉からバスに揺られながら、上高地へと向かった。快晴ならば、壮大な尾根に雪化粧の北アルプスの山々が観えるが、あいにく雨天だったので観ることが出来なかった。ツアーの参加者達は、雨天でもあってバスの終点である河童橋迄乗ったが、私達数人は大正池で下車し、大正池→自然研究路(木道)→田代池→河童橋へと約 1.6 kmを 100 分程掛けて足元に注意しながら、花を探して歩いた。上高地は、標高 1500mで前日の白馬五竜高山植物園とほぼ同じ高さである。野鳥の好きな私は、ウグイス、ヤマガラ、シジューガラ、コマドリ、ルリ、セキレイなどの鳴き声が心地良く耳を癒してくれた。ここには、約 70 種類の野鳥が生存しているらしい。

上高地は、梓川に沿って林の中を探索するから高山植物と言うよりは山野草が適しているようだ。特に、自然上高地は、自然環境の中で山野草が生存しているから、我が庭の山野草を育てるに大いに参考になる。歩道の中に、ニッコウキスゲの群生、ゴゼンタチバナ(我が家の花と同種類であったが、30 数年前に男体山/日光で見たゴゼンタチバナは花も茎も 2 倍程大きかった)、イチヤクソウ、マイズルソウなど作られた植物園でなく、自然に生存している花の逞しさが身体に伝わってきた。



梓川周辺



ニッコウキスゲの群生



ゴゼンタチバナ

時間の制約から明神池と穂高神社に行けなかったが、中継場所の河童橋周辺のホテルで昼食をとり、チーズケーキで有名な五千尺ホテルでチーズケーキを 1:30 に注文したが、注文切れでレアチーズが 1 品だけだった。本品は、自家配合肥料の会田共同養鶏組合の卵とフランス産のクルームチーズに発酵バターなどの素材に感性豊かなパティシエの技術から生まれた濃厚且つ贅沢な味わいである。我が家も日持ちする信州リンゴのハンドケーキを軽井沢で食べるべく持ち帰ってきた。雨天だったので、濃霧でカメラが使用出来ず、絵葉書の河童橋と穂高連峰をカメラに撮り紹介する。



レアチーズ/左側とチョコケーキ



河童橋



河童橋と穂高連峰/絵葉書

ビーナスライン(車山)

最終日の 3 日目は、白馬八方温泉からバラクライグリッシュガーデンに向かった。途中、ガラス作家の作品を展示即売している AZUMINO ARTHILLS MUSEUM に立ち寄った。家内は、アートの好きな二男の嫁にガラス製品を購入していた。

工房から諏訪湖を経てビーナスラインを通過して車山に登った。時間の関係から、霧ヶ峰や美が原に足を延せられなかった。「長野県におけるオオジシギ Gallinago hardwickii の生息状況とその意義：特に軽井沢と霧ヶ峰の繁殖集団について」石塚徹、堀田昌伸共著 長野県環境保全研究所研究報告 8:13-23 (2012) に記述されているザゼンソウ、コバイケソウ、ヤマドリゼンマイ、スズラン、ハクサンフウロ、レンゲツツなどの姿に出会わなかった。勿論、お目当てのニッコウキスゲやマツムシソウも時期が早く見ることが出来ず残念だった。

失望していたところ、昼食で立ち寄った高級ホテルの庭に、咲き終わったヒマラヤ青いけしが数株とつぼみを付けた同花を発見した。既に、種を付けていた。教え子が茅野市に住んでいるから、ツアー最終の茅野駅に呼び出し、同ホテルの青いけしの種を確保出来ないかと依頼した。

ブルーポピーの色合いは、五竜高山植物園の方が見応えがあった。

快晴ならば、ホテルから八ヶ岳連峰(茶臼岳、天狗岳、横岳、観現岳等)が一面に望めるが雨天のためにダメだった。



ビーナスラインからの諏訪湖



車山



高級ホテルの庭で種を付けた青いけし

バラクライグリッシュガーデン

15 年前、教え子が茅野市で会社を営んでいるので、彼の会社診断を兼ねバラクラを訪れた。当時は、入口が広くメインツリーのゴールデンアカシヤが目にとまり、苗木を軽井沢の別荘に持ち帰り、現在直径 10 cm程に成

長している。今回の同園は、入口のゴールデンアカシヤが建物内に位置し、当時空地の場所が建物になり、レストラン、ギフト店など大きくビジネス展開をしており、バラクラの繁栄振りを直視した。

同園の見学目的は、我が軽井沢の庭に無い宿根草をカメラに撮り、小淵沢の専門店で注文することにあつた。15年前は、殆ど知らなかった宿根草に圧倒されたが、今回は我が庭に無い花のシャッター数は15回程度で、私達もバラクラに近付き、更なる珍しい花集めを目指そうと気持ちを引き締めた



バラクラ



バラのアーチ



我が家に無い宿根層

赤城山

赤城山の探索は、NPO法人自然観察さいたまフレンドが主催した「赤城高原フラワーウォキング」に参画した。探索コースは、大宮→覚満淵→小沼→大沼の赤城神社の参拝→大宮のバスツアーである。

赤城山は、40年前の30代の頃、前橋工場建設で赴任していた頃、会社の保養所が赤義山にあり、週末カメラ持参で良く出掛けていた。当時は、大沼の北側山麓に1株に17~18株花卉を付けたアツモリソウ、白花アツモリソウ、カモメラン、クルマユリ、トキソウ、アヤメ、トンボソウ、ワタスゲ、スズランなどが生存していた。覚満淵や小沼周辺には、ミズキボウシやニッコウキスゲが足で踏みつけるように生存していた。保養所の庭にあったミズキボウシ(当時は持ち帰れた)は、自宅(練馬)や軽井沢で元気に育っている。

期待を膨らませ、同探索に参加したが、時期も早かったとは言え昔は花が一面に咲き誇っていたが、今回は山野草を探すのに一苦労した。



ヤマトキソウ



モウセンゴケ



ソバツノギラン

山野草は、ミズキボウシ、イチヤクソウ、キンポウゲ、ヤマオダマキ、マイズルソウ、ハネアザミが時々目に留まるに過ぎない。少ない山野草の中でも、珍しいヤマトキソウ×1株、数ヶ所で見えたモウセンゴケとネバリノギランであり、期待を大きく裏切られた。

樹木では、咲き終わったレンゲツツジ、満開の濃紅サラサドウザンと薄紅サラサドウザンは隋所で見かけた。昔は、水辺を探索していたが、今は立派な木道が完成していた。驚いたことは、竹が水辺まで生い茂り、山野草の生存エリアを占領されていることに加え、鹿が随所に現れ、樹木の皮を激しく剥いて食べていることだ。至る所に、樹木を金網のネットで、鹿の餌にならないように保護されている。頂上近くの左手に牛が放牧され、そこにレンゲツツジの群落があつた。今回は、レンゲツツジが大きく成長していたが、放牧牛の姿は見えなかった。レンゲツツジと白樺は、毒性があり鹿の餌にならないから、すくすく育っていた。

今回は終日雨天だったが、最後の赤城神社だけ雨が止み、カメラが使えた。大沼にカワウが居て、魚が減ることが心配だ。



大沼に掛る赤城神社への橋



赤城神社



1日花の月下美人

PS4：昨年、軽井沢別荘の隣の方(東京在住)から月下美人を頂き、7月6日 20:00頃に自宅で咲いた。中心部の直径9cm、2段目15cm、3段目20cm、外輪22cm、下がり部25cmと見事な花卉です。頂いた方にお礼の電話をしたところ、先方も同日同時間に咲き、DNAなのかな？

PS5：今年から本格的に珍しい高山植物と山野草に取り組んでいるが、今回軽井沢南ヶ丘別荘に来てみると、高価で極めて入手困難なアツモリソウとユリが、猪に根元から掘り起こされ、地上に掘り出され枯れていた。聞くところによると、南ヶ丘に猪が2頭居て荒らしているとのこと。これからも、懲りずに珍しいアツモリソウとユリに挑戦するので、これらの花を取り囲む柵を至急設ける手配をしている。